

第5回 バンクーバーで仕事探し

統計からの抜粋ですが、1968年 私が小倉からバンクーバーへ来た年、バンクーバーは100万人都市と言われていました。同じく小倉は、北九州市の中心地で、その北九州市は105万人でした。

ちなみに、当時の福岡市は80万人でした。あれから、48年、北九州市95万人、福岡市は150万人。それに比べてバンクーバーは、何と250万人に伸びているのです。驚異の飛躍です。

1968年10月13日 日曜日午後5時頃に羽田を発って、同日の午前10時頃にバンクーバー空港に到着しました。羽田では同じセミナーを受けた友達と一緒に、席は別々でしたが、バンクーバーに着いてから一緒に行動しました。まずは、リムジンバスで市の中心地、ダウンタウンへと行きました。その時、バスの車窓から、何と、紅葉した街路樹が道路の両側に沿って直線的に伸びているではありませんか。それは、まるで森のある公園に住居が建っている様な感じでした。お天気も良く、一気にバンクーバーが気に入りました。日本の街の風景とは、全く違った風景がそこにありました。

バスの窓の外を見ながら気付いたのですが、通りに人がいないのです。そして、とても静かなのです。

真直ぐに伸びた道をバスは走り、30分ほどで街の中心地、ダウンタウンに着きました。

バス停は、バンクーバーで最高級の“バンクーバーホテル”の裏側にあり、最高級ホテルを横目で見ながら、直ぐに、セミナーの友達とその日の宿、YMCAに歩いて向かいました。1週間、4人の相部屋で一人22ドルでした。単純計算で一泊3ドル15セント、日本円では1,040円程度です。でも、当時は、3ドル程度あれば一日の食費が賄える具合です。最初の一週間は瞬く間に過ぎていきました。でも、一週間もすれば、大体のバンクーバーのダウンタウンをほぼ、回る事が出来ました。東京の街を経験していますので、その時、何と 田舎かと思ったくらいです。しかしながら、いつまでもYMCAに滞在する訳には行きません。直ぐに、安い下宿先を探しました。そして、こちらで知り合った日系人の旅行会社の社長さんの紹介で、一ヶ月25ドルの屋根裏の部屋を借りる事ができました。ほぼ、YMCAの4分の1の値段です。そして、その後の一週間、街を歩き回り、仕事探しと色々な政府関係の手続きをしました。友達と一緒にだった事が幸いして、割とスムーズに運びました。『案ずるより産むが易し』ですか、とにかく、ドンドン前に進みました。自分から進んでしないと、誰も何もしてくれませんからね。

その一つに、Social Insurance Number (SIN) (社会保険番号) の手続きがありました。それは、個人の背番号の様な番号でした。それがないと仕事に就けないのです。そして、その週の木曜日に、もう仕事を見つけたのです。それは、北バンクーバーにある造船所での溶接工としての仕事でした。バンクーバーに着いて、2週間後の月曜日から、早速、働き始めたのです。その頃、カナダは景気が良かったのでしょね。とにかく、仕事を確保したのです。寝泊まりする部屋も屋根裏部屋：一からの出発です。

ところで、給料をもらうまで暫く待たなければなりませんでした。会社は、土曜日と日曜日がお休みで、金欠病の私は、その日は、こちらで日系ガーディナーをしている人に頼んでヘルパー（お手伝い）として働きました。そして造船所の初めての給料は、それから2週間後の金曜日でした。その時の帳簿を見ますと、その日の財布には、現金で僅か36ドルしか残っていませんでした。カナダに来て約1ヶ月目の事です。でも、その後は、順調に仕事がありクビなる事もなく、財政はヒヤヒヤでしたが、色々必需品を買

って生活に困る事はありませんでした。でも、お金が無くても気持ちは絶望とは無縁で、何とも思いませんでした。そして、一度も借金する事はありませんでした。ただ、初めての給料の明細書もらった時、物凄い割合の税金が取られているのには驚き、手取りが期待していたより少ない事にガッカリしました。エッエ～！こっちは、本当に税金が高い～と実感しました。独身者なら約25%、色々と引かれています。でも、私は仕事に関しては、ものすごくラッキーでした。まず、驚いた事に、雇われた会社はユニオン会社で労働組合があり、賃金も同一労働ならば、同一賃金でした。つまり職務給なのです。私も、直ぐに同じ仕事をする他の工員と給料は一緒でした。そして、時給で3ドル55セントでしたので、日本円では、1,200円程度になったのです。当時の日本の賃金と比べると3倍から4倍の感じでした。そのために、私はかなり助けられました。4ヶ月も働くと、税金は高いとは言え、中古の車が買えるほどにまでなりました。代金は300ドルで、人生で初めての自家用車を持ったのです。車はスツードベーカーと言うアメ車で、10年の中古車でしたが、V8のエンジンで馬力がありました。スタイルに魅力あり、好きでした。でも、それよりも、運転している時は、ガソリンメーターの針の方が気になりました。とにかく、ガソリンを食うのです。もう道路にガソリンを撒いて走っているような感じでした。



ところで、秋も深まり寒さが増して来た、12月の末、初めてのカナダでのクリスマスを迎えました。会社では、クリスマスイブの24日は半日で、正午から会社が用意した軽食を食べ、お酒を飲んで帰路につきます。でも、面白い事が造船所の現場で起きました。それは、スコットランド出身の太った中年男性が、会社にバグパイプを持って来て、正午前に、現場のみんなを集めてバグパイプを吹き始めたのです。そして、彼を先頭にして事務所までみんなが行進したのです。カナダ人も、イギリス人も、ドイツ人も、フランス人も、スペイン人も、中国人も、インド人も、ベトナム人も、黒人も、そして、日本人の私も行進に加わりました。初めて経験する国際色豊かな行進でした。

また、下宿ではとんでもない事を経験をしました。YMCAから移った下宿は、オーナーは住んでいなく、オーストラリア人の男性が一軒を丸ごと借りて、屋根裏を入れて5つほどある部屋を又貸ししていました。そして、クリスマスの日、みんなの友達を呼んでクリスマスパーティーを開いたのです。下宿人の一人にトロントから来た男性の料理人がいて、彼がターキーディナーを作ってくれたのです。総勢16人ほど集まりましたか。ハプニングが起こったのは、食事前のドリンクを楽しんでいる時でした。一人の中年女性が一人一人に挨拶をしていたのです。そして、驚いた事に、男性には、何と、キスをするのです。握手をして、“メリークリスマス”そして、チューです。私も、されました。カナダでの初めてのキスは、そ

の時でした。エッエッエッ〜、ここは、日本と違う、やはりカナダだぁ〜と強く感じた瞬間でもありました。(頬っぺたではなく、まともにするのです。)

クリスマスイブから1週間後、今度は、ニューイヤーイブ(大晦日)での出来事です。同じように、また、パーティーがありました。今度は、新年を祝うイブです。日本ならば、神社に行って初詣となりますが、こちらでは、元旦の午前0時を境に、花火を上げたりします。そして、パーティーで物凄い事が起きたのです。午前0時と同時に、スコットランド民謡『Auld Lang Syne』(オールド ラング ザイン:古き良き昔、日本では 蛍の光)を合唱するのです。そして、その後、何と、男女でキスをするのです。これもまた、ビックリです。同じ下宿にいるイギリス人の女性二人からと、ゲストで来られた知らない女性からも親切にキスしてもらいました。私はもう、天地がひっくり返るほどのビックリでした。カナダに、その様な慣習があったとは、全く知りませんでした。勿論、こちらでは、ハグする事は自然な事ですし、初めの頃、少し抵抗はあったものの、すんなりと受け入れました。でも、キスとなると話は、違って来ます。カルチャーショックと言うのでしょうか、今、思うと、津波の様な大きな文化の違いをまともに受けた感じでした。でも、初めの頃は、なんだか余りにも貞操観念がない感じで嫌でしたが、何年かする内に、自分もしてやろうと思った事もあります。でも、やはり出来ませんでした。そもそも、日本人には、そういう事に対して、基礎訓練が出来ていないのです。つまり、そういう文化が日本にはないのだと思いました。そして、その事はある面では、自分が今まで持っていた信条とか、常識を、根底から覆す大きな出来事だと思います。ですから、一度、自分を破壊して、再び新たに自分の信条とか、常識を作り上げなければならぬ状況に直面するのでした。これは、とても良い経験だったと思います。

それから、週末には時間がありましたので、ナイトクラブに行きました。そして、一度だけでしたが、10センチほど私より背が高く、若くて綺麗なカナダ白人女性とチークダンスを踊った事があります。最初に離れて踊るダンスの後、曲が急にスローテンポになり、明かりも暗くなり、回りのカップルが自然とチークになったのでした。さて、どうしようかと一瞬、コチコチになったのですが、これも一つの国際親善か、と思ってそのまま立っていたのです。すると、彼女の方から、嫌がる訳でもなく、私に近づいて来て、自然と抱き合う形になったのです。相手は初めてそのクラブで出会った女性でしたが、私を一人の男性と見てくれ、差別する事なしに踊ってくれた事に、非常に感激しました。でも、抱き合っている間は、本当に汗びっしょりでした。その時の気持ちは、何だか自分が電信柱にとまって鳴いているセミになった様な感じでした。バンクーバーの冬は、雨が多くて日が短く、朝は、8時半頃に陽が昇り、午後の4時半には、もう暗くなっています。ですから、週末の楽しみはそう言う所へ通いました。また、車を購入してからは、お天気の良い日は、戸外をドライブしました。

また、その年の冬は、バンクーバーは、記録的な大雪でした。



下宿屋でのクリスマスパーティーです。

---- 次回へ ----